

花の道の部

総 評

審査は7月27、28日の2日間行いました。その際に印象に残った事項やとても参考になる取り組みを紹介いたします。

- (1)それぞれ多彩な花のまちづくりに取り組まれており、どこも必見でした。例えば、「コンテナ・プランター主体に街中を花いっぱい」(立野栄町)、「小学生との花育・異世代交流」(新庄北)、「プランター・ハンギングのみでのフラワーロード」(土田自治会)、「砂地の悪条件でもめげないひまわり畑」(柳田)、「殺風景なグラウンドへの一本道を花道に」(南部第六) など
- (2)6月下旬からの空梅雨の高温少雨に苦しめられ、生育量が小さく、さらに枯死する草種があったとのことですが、①草種の的確な植え替え、②思い切った切り戻し、③毎日の地道な水やりなど、各地とも高い栽培技術力で乗り切っておられました。これからも、それぞれの地で①暑さに強く、土壌条件に合った草種・品種を試作・選択され、②気象の変動(高温・多雨・少雨)にも耐えうる土づくり(多量の一発施用は厳禁ですよ)を基本に、楽しみながら取り組んでいただきたい。
- (3)デザイン面では、「散策するにつれ、いろいろな花に出会え」、「一年草・多年草や灌木でリズムをあたえ」(野ぎくの会、高波、下伏間江)など、長い長い花の道ならではの醍醐味を堪能しました。
- (4)さらに、①花づくりの持続性を見据えて、「多年草や灌木の植栽を広げ、毎年の作業量を減らそう」(下伏間江)、「宿根草や地覆類を意識して栽植、他地域グループと連携」(大沢野)、②地域共生の輪を広げようと、「地域内での花壇や庭の審査会を実施」(立野栄町)、「123m花畑を見る会の開催や写真コンテストの実施」(新庄北)など、いろいろな試みについて伺うことができました。

最優秀賞評

最優秀賞を受賞した砺波市の『五ヶみち花壇』は、県道沿いに里山と田んぼを借景にした全長150mの花の道です。60名の会員の皆さんが、25年間にわたりお世話されており、すでに、当コンクールで最優秀賞を何度も受賞されるなど、とやまを代表する花の道です。

青いアガパンサスと黄色のヒマワリを後部に配置し全体を統一かつ引き締め、前面にはコリウス、マリーゴールドなど多彩な草種を配置し、花の道全体に変化とリズムを醸し出していました。また、ウクライナへの応援も込めたとのことでした。さらに今年は赤のベゴニアで大きな「ハート」を中央円形花壇に描き、インパクトの大きなデザインでした。

花たちも空梅雨を乗り越え、元気で生き活きとし、昨年まで見られた過剰なモミ殻たい肥のマルチ施用(土壌混層後の窒素飢餓を懸念)も是正されるなど、グループの皆さんの高い栽培技術力が推察されました。

なによりも、ワイワイとしたお話、笑顔から、皆さん自身が日々楽しんで花と過ごしておられるんだなあと、こちらもうれしくなりました。これからもお互いの歳のことは気になさらないで、元気に仲間を増やし、ワイワイと楽しみの輪を広げていただきたいと思います。

(審査委員長 石黒 哲也)